

古典文庫『狭衣物語』（蓮空本）補訂卷一

——蓮空本・四高本・学習院本との比較から——

神田龍身	青木祐子
鈴木幹生	勝亦志織
近藤さやか	千野裕子

「キーワード ①『狭衣物語』 ②古典文庫 ③蓮空本 ④四高本 ⑤学習院本」

本稿は、吉田幸一著古典文庫96、97、100『狭衣物語蓮空本』（以下、古典文庫）、蓮空本（巻一・二のみ現存。天理大学附属天理図書館蔵）、蓮空本を江戸期に書写した四高本（金沢大学附属中央図書館蔵）、四高本を昭和期に書写した学習院本（学習院大学文学部日本語日本文学科蔵）の四本を対照し、その異同箇所を一覧にしたものである。

古典文庫は巻一・二の底本に蓮空本、巻三・四の底本に学習院本を使用している。しかし、巻一・二における蓮空本における脱落や虫損箇所については、学習院本によって補われている。そのため、巻一からの異同を見ることに意義があると考え、今回は巻一について表にした。蓮空本・四高本・学習院本の関係

を明確にするため、今後、巻四まで継続する予定である。

以下、表についての凡例である。

一、古典文庫の該当ページを示し、異同の見られる箇所を諸本ごとに提示し、疑問の箇所には？を付した。

一、古典文庫が独自に付した濁点、句読点、括弧については異同とは認めず、また古典文庫の「ママ」や私案等についても同様とした。

一、古典文庫では、踊り字について「々」などで表記している場合があるが、これらも底本が踊り字であった場合には異同とは取らなかった。

一、異同箇所には算用数字による通し番号を付した。

一、朱書の場合は、どの箇所が朱書であるかを「ミセケチ朱」などの表記で示した。

付記

貴重な資料の閲覧及び翻刻掲載をご許可くださった、天理大学附属天理図書館、金沢大学附属図書館、学習院大学文学部日本語日本文学科に厚く御礼申し上げます。

本稿作成にあたり、学習院本の翻刻に協力してくださった左記の皆さんに御礼申し上げます。

富澤 萌未（学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本

文学専攻博士後期課程修了）

瀬野 瑛子（同大学院博士前期課程修了）

手塚智恵子（同大学院博士前期課程修了）

竹田由花子（同大学院博士後期課程在学）

毛利香奈子（同大学院博士後期課程在学）

なお、本稿は科学研究費助成事業「狭衣物語諸本研究—三条

西家本を軸にして—」（基盤研究（C）15K02224／研究代表者：

神田龍身）による成果の一部である。

（かんだ・たつみ 文学部教授）

（あおき・ゆうこ 文学部非常勤講師）

（すずき・みきお 博士前期課程修了）

（かつまた・しおり 博士後期課程修了）

（こんどう・さやか 博士後期課程修了）

（ちの・ゆうこ 博士後期課程修了）

番号	頁	古典文庫	蓮空自筆本	四高本	学習院本
12	4	よにまかせ	よにまかせ	よにまかせ	よにまかせ
11	4	おほしうとまれ	おほしうとまれ	おほしうとまれ	おほしうとまれ
10	3	おほしたる	おほしたるに	おほしたるに	おほしたるに
9	3	たてまつらん	たてまつらん	たてまつらん ※「つ」の上に「て」と書き直している。	たてまつらん
8	3	たもずまる	たもずまる	たもずまる	たもずまる
7	3	ぞき 人もなし	ぞき 人もなし	ぞき 人もなし	ぞき（書き入れ朱） 人もなし（ミセケチ朱）
6	2	ひきそへ	ひきそへ	ひきそへ？	ひきそへ
5	2	まもられ給へり	まもられ給へり	まもられ給へり	まもられ給へる
4	2	しなにも	しなにも	しなにも	しなにも
3	1	御かたに	御かたに	御かたへ ※「に」の上に「へ」と書き直している。	御かたへ
2	1	なげつべし	なげつへし	なげつへき	なげつへき
1	1	春おしめども	春おしめども	春おしめども	春おしめども

26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
18	18	18	17	13	13	11	10	10	9	8	7	6	5
せんよう殿	いろはだへ	みえゝつれ	ふところイ た、うがみ	あなひし給はぬ	かひなる	いまめかしきさま	かきねの	まめだち	かけのこくさ	御 ゆ身のさへ	宮たゝひとり	式イ 兵部卿宮	たゝ人になり給にけれと
せんよう殿	いろはたへ	みえゝつれ	ふところイ た、うがみ	あなひし給はぬ	かひなる	いまめかしきさま	かきねの	まめだち	かけのこくさ	御 ゆ身のさへ	君たゝひとり	式イ 兵部卿宮	たゝ人になり給にけれと
せんよう殿	いろはたへ あい ミ	みえゝつれ	ふところイ た、うがみ	あなひし給はぬ	かひなる	いまめかしきさま かた	かきねの	まめだち	かけのみくさ	御身のさへ	君たゝひとり	式イ 兵部卿宮	たゝ人になり給にけん ^ハ と ※「れ」の上に「ん」と書き直 している。
せんえう殿	いろはたへ ミ	みえゝつれ	たゝうかみ	あるひし給はぬ	かひある	いまめかしきさま かた	うきねの	まめだち (ミセケチ朱)	かけのみくさ	御身のさへ	君たゝひとり	式イ(イのみ朱) 兵部卿宮	たゝ人になり給にけん ^ハ と

41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	番号
33	32	31	29	28	27	25	24	24	24	24	24	22	21	19	頁
給ぬるをみ給て	なにことにて	めづらかなり	みんづら	みたまはざりしかは	御ぜんのとうろ	せめさせ給へば	事のほかにても	おかしう	まぎれて らはし	まふりふよまも	かきあはせて○ こそ	きなゆし	うちわたりに	みきこえけり	古典文庫
給ぬるをみ給て	なにことにて	め？つらかなり	みんづら	みたまはざりしかは	御ぜんのとうろ	せめさせ給へば	事のほかにても	おかしう	まぎれて らはし	まふりふよまも	かきあはせて○ こそ	きなゆし	うちわたるに	みきこえけり	蓮空自筆本
給ぬるをみ給て	なにことにて	め？つらかなり	ひんづら	みたまはざり？しかは ま？	御せんとうろ まへ	せめさせ給へば	事のほかにても 手	ナシ	まきはして	ナシ	かきあはせてこそ	きなし	うちわたるに	みきこえけん ※「り」の上に「ん」と書き直 している。	四高本
給ぬるをみ給ん	なにかとにて	めづらかなり めカ(朱)	ひんづら	みたまはまゆしかは ま	御せんとうろ まへ	せめさせ給へば	事のほかにても 手	ナシ	まきはして	ナシ	かきあはせてこそ	きなし	うちわたるに	みきこえけん	学習院本

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42
46	44	44	41	40	39	38	38	38	37	35	34	34	34	34
まいりて候へば、	もらし侍りぬるこそ	とらへられたる	身色如金山	いはれ給ぬり	そうづめして	げにとの、の給へる	しかせてね給ぬる	せちにきこえ給へは	むかひのをかは	思ひ給くへらるゝ	殿上くちに	ならんかし	ひたき屋の人も	さはがしきけもなし くイ
まいりて候へは	※■は虫損 もらし侍りぬる■そ	とらへられたる	身色如金山	いはれ給ぬり	そうづめして	けにとの、の給つる	しかせてね給ぬる	せちにきこえ給へは	むかひのをかは	思ひ給へらるゝ	殿上くちに	ならんかし	ひたきやの人も	さはかしきけもなし くイ
まいりてさふらへは	も（朱） もらし侍りぬるこそ	とらへられたる	身色如金山	いはれ給ぬる	そうづめして （ミセケチも朱）	けにこの、の給つる	※書き込みは鉛筆力。 しかせてね給ぬる ぬ	せちにきこえ給へは	むかひのおかは	思ひ給へらるゝ	の 殿上くちに	ならんかし	ひたきやの人も （「人も」の上は朱線）	さはかしき くイ
まいりて宮は	もらし侍りぬるこそ	こらへられたる	身也如金山	いはれ給ぬる	そうづめして	けにこの、の給つる	しかせてね給ぬる	せちにきこえ給へも	むかひのおかは	思ひ給へらるゝ	の 殿上くちに	ならんかく	ひたきやの人も （朱）	さはかしき くイ

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	番号
59	58	57	56	56	56	54	54	53	53	53	52	52	47	頁
威儀師と○人 申	人くハやく	なつかし いとをかし○	思給事もあらん	をこたり侍るなり	なくさめそひ給て	御めのとにても候けり	いか、おもふらん	宮のさの給はせんを	すきくしう	うへもあはれなり ざイタイ	ひとりごつに	けしきの	さ ○きこえ給は、	古典文庫
威儀師と○人 申	人くはやく	なつかし いとをかし	思給事そあらん	をこたり侍るなり	なくさめそひ給て	御めのとにても候けり	いか、おもふらん	宮のさの給はせんを	すきくしう	うへもあはれなり さいタイ	ひとりごつに	けしきの	さ ○きこえ給は、	蓮空自筆本
威儀師と申人	人くかやく	なつかし いとをかし	思給事そあらん	をこたり侍りなり	なくさめそひ給て ※「ひ」の上に書き直した跡有。 判読不能。	御めのとにても候けり	いか、おもふらん	宮のさの給はせんを	すきくしう	うへもあはれなり さいタイ	ひとりごつに	けしきの	さきこえ給は、	四高本
威儀師と申人	人くかやく	なつかし いとをかし	思給事そあらん	をこたり侍りなり	なくさめかね給て	御めのとにても侍けり	いか、おもふらん	宮のさ給はせんを	すきくしう	人もあはれなり さいタイ	ひとりごつに り(ミセケチ朱)	けしきの	さきこえ給は、	学習院本

85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71
77	75	74	73	72	71	70	70	68	66	64	64	63	63	62
は、イ は、のかみの	かたもめ ハラ	又○がはゆくす束のも わ	かくの給はすれば	すがやかに○いで、 セイ	中將のイ けり。○君はみなれ	この君にては	べたうどの、	師の中納言	人さまにぞ	いふせうあつけなり	はしとみなかく	さ○はまかりぬべき らい	きこえすて、こそ	との給ふ束 て
は、イ は、のかみの	かたもめ ハラ	又○がはゆくす束のも わ	かくの給はすれば	すかやかに○はて、 セイ	中將のイ けり○君はみなれ	この定にては	へたうとの、	帥の中納言	人さまにぞ	いふせうあつけなり	はしとみなかく	さ○はまかりぬへき らい	きこえすて、こそ	との給ふ束 て
は、イ は、のかみの	かたはらめ	又わかゆくも	かくの給はそれは	すかやかに○はて、 セイ	中將のイ けり○君はみなれ	この定にては	へたうとの、 ツ(朱)	帥の中納言	人さまにぞ	いふせうあつけなり	はしとみなかく	さ○はまかりぬへき らい	きこえすて、こそ はけにす(朱)	の給ふて
は、イ は、のかみの	かたはらめ	又わかゆくも	かくの給はそれは	すかやかに○はて、 セイ(朱) (補入記号も朱)	中將のイ(朱、補入記号も朱) けり○君はみなれ	この定にては	へ○たうとの、 ツ(朱、補入記号も朱)	帥の中納言	人さまにて	いふせくあつけなり	は□とみなかく	さ○はまかりぬへき らい(朱、補入記号も朱)	きこえすて、こそ はけにす(朱)	の給ふて

番号	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98
頁	77	77	78	79	79	79	80	80	82	83	83	83	84
古典文庫	を○かのうへの ない	おのこゝイ をとゝこの	シミかへり	あたり○に までイ	きイ なこみぬへき	きイ ひもとちわたる	給へりイ ふし○たりける	で そ○うちかはし	もイ 水はたえせし	しられたてまつりてこそ	はゝのひめきみ	玉をみるける	二イ 甘になり給けれど、
蓮空自筆本	を○かのうへの ない	おのこゝイ をとゝこの	しみかへり	あたり○に までイ	きイ なこみぬへき	きイ ひもとちわたる	給へりイ ふし○たりける	て そ○うちかはし	もイ 水はたえせし	しられたてまつらてこそ	はくのひめきみ	玉をみかける	二イ 甘になり給けれと
四高本	を○かのうへの ない	おのこゝイ をとゝこの	しにかへり ※「み」の上に「に」と書き直 している。	あたり○に までイ	きイ なこみぬへき	きイ ひもとちわたる	給へりイ ふし○たりける	そてうちかはし	もイ 水はたえせし	しられたてまつらてこそ	はくのひめきみ	玉をみかける	二イ 甘になり給けれと
学習院本	を○かのうへの ない(朱、補入記号も朱)	おのこゝイ(朱) をとゝこの	しにかへり	あたり○に までイ(朱、補入記号も朱)	きイ(朱) なこみぬへき	きイ(朱) ひもとちわたる	給へりイ(朱、補入記号も朱) ふし○たりける	そてうちかはし	もイ(朱) 水はたえせし	しられたてまつらてこそ	はくのひめきみ	玉をみるける	二イ(朱) 甘になり給けれと

112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99
93	92	92	91	90	90	89	89	88	88	87	87	85	85
かくごんの	いぬもとときとかや	はつイ はくとよみかくる	おかしきにけぬべければ、	はつミ はらくとよみかけ	うらみにうたを	たち○にくゝもある て るイ	そこらはいしくと	きぬのすそ、○くち、 袖	たちたまよひて さ	なり給て大殿 ぬイ	五月のついたち比 八イ	ほのかにて	らうたつなりけり
かくらんの	いぬもとときとかや	はつイ はくとよみかくる	おかしきにけぬへければ	はつミイ はらくとよみかけ	うらみにうたを	たち○にくゝもある て るイ	そこらはいしくと	きぬのすそ○くち 袖	たちたまよひて さ	なり給て大殿 ぬイ	五月のついたち比 八イ	ほのかにて	らうたつなりけり
かくらんの ごん（朱）	いぬもとときとかや	はつイ はくとよみかくる	おかしきにけぬへければ	はつミイ はらくとよみかけ	うらみにうたを	たちてにくゝもある るイ	そこらはいしくと	きぬのすそ袖くち	たちさまよひて	なり給て大殿 ぬイ	五月のついたち比 八イ	ほのかにて	らうたけなりけり ※「つ」の上に「け」と書き直 している。
かくごんの	いぬもときてかや	はつイ（朱） はくとよみかくる	おかしきにけぬへければ	はつミイ（朱） はらくとよみかけ	うらみにうたを ら（ミセケチのみ朱）	たちてにくゝもある るイ（朱）	そこらはいしくと	きぬのすそ袖くち	たちさまよひて	なり給て大殿 ぬイ（朱）	五月のついたち比 八イ（朱）	ほのかにて	らうたけなりけり

123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	番号
105	105	104	101	99	99	99	99	97	95	94	頁
わが、たはらに	よふ にかくかへり	ぞとよ」など	神無月の比 ともに〇つくしへ	女君たちならず	あるとの給はと ハ	別當の〇少将 このイ	さそふ水たに	ありしいのりのしに	このみし給ほどに	かのかうちけん くしイ	古典文庫
わか、たはしに	よふ にかくかへり	そとよなど	神無月の比 ともに〇つくしへ	女君たちならず	あるとの給はと は	別當の〇少将 このイ	さそふ水たに	ありしいのりのしに	このみし給ほどに	かのかうちけん くし■(虫損)	蓮空自筆本
わか、たはしに	よふ にかくかへり	そとよなど	神無月の比イ ともに〇つくしへ	女君た、ならず ※「たち」の上に「た、」と書き直している。	あるとの給はと	別當の〇少将 このイ	さそふ水たに 水	ありしいのりのし (朱)師	このみし給ほどに	かのかうちけん こ(朱)	四高本
わか、たはしに	よふ にかくかへり	そとと争など よ(ミセケチ朱)	神無月の比イ(朱) ともに〇つくしへ (補入記号も朱)	女君た、ならず	あるとの給は、と	別當の〇少将 (補入記号も朱)	さそふ水たに	ありしいのりのし (朱)師	このみし給はとも	かのかこちけん くしイ(朱)	学習院本

135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124
114	114	112	111	110	109	108	108	108	107	106	105
あやしうもの心	とかへる山のとイ 「こえぬるやま」と	女の <small>いひ</small> にてぞ 苦イ	権イ こ中納言のうせられ	あらばやなど思ふに、	するが、りぞもの、 が、めこそ	いぎしは思ひいで	きたの井はるとて に	そのくたりともなく わイ	わたらなん りイ	あとなき水に 沼イ	ふくらかなれを る
あやしうもの心	とかへる山のとイ こえぬるやまと	女の <small>いひ</small> にてぞ 苦イ	権イ こ中納言のうせられ	あらはやなど思ふに	するか、りぞもの、 か、めこそイ	いきしは思ひいて	きたの井はるとて に	そのくたりともなく わイ	わたらなん りイ	あとなき水に 沼イ	ふくらかなれを る
あやしうもの心	とかへる山のとイ こえぬるやまと	女の <small>いひ</small> にてぞ 苦イ	権イ こ中納言のうせられ	あらはやなど思ふに	するか、りぞもの、 がの女君イ（朱） か、めこそイ	いぎしは思ひいて （濁点朱） 師（朱）	きたに井はるとて	そのくたりともなく わイ	わたらなん りイ	あとなき水に 沼イ	ふくらかなるを
あやしうことの心	とかへる山のとイ（朱） こえぬるやまと	女の <small>いひ</small> にてぞ 苦イ（朱、ミセケチも朱）	権イ（朱） こ中納言のうせられ	（朱、ミセケチも朱）に あらはやなど思ふに	するか、りぞもの、 がの女君イ（朱） か、めこそイ（朱）	いぎしは思ひいて 師（朱、濁点も朱）	きたに井はるとて	そのくたりともなく わイ（朱）	わたらなん りイ（朱）	あとなき水に 沼イ（朱）	ふくらかなるを

151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	番号
128	128	128	127	126	125	124	123	123	122	122	121	118	118	115	114	頁
いまあすそわたり	月にかよひ給し	いできたり	いまはいかなりとも	ひきうごしうらむ	さてこそあはれと	なつかしさま	あまりにうたて	をとりたると	いとかなしくて	みよ』との給へり。	いてくだるなり	よのつねなり	えわらひなどする	思ひいづる事は (わくい)	くるまをとして	古典文庫
いまあすそわたり	月にかよひ給し	いてきたる	いまはいかなりとも	ひきうごしうらむ	この部分、一丁分欠	この部分、一丁分欠	あまりうたて	おとりたると	いと、かなしくて	みよとの給つる	いてくだるなり	よのつねなり	えわらひなどする	思ひいづる事は わくい	くるまをとして	
いまあすそわたり 今日(朱)	月にかよひ給し ※「よ」に朱で斜線有。	いてきたる	いまはいかなりとも	ひきうごしうらむ か(朱)	さてこそあなれと	なかる、さま	あまりうたて	おとりたると	いと、かなしくて	みよとの給つる	いてくだるなり	よのつねなり	え○わらひなどする ミ	思ひいづる事は わくい	くるまをとして	四高本
いまあすそわたり 今日(朱)	月にかよひ給し ※「よ」に朱で斜線有。	いてきたる	いまはいかなりとも	ひきうごしうらむ か(朱)	さてこそあなれと	なかる、さま	あまりうたて	おとりたると	いと、かなしくて	みよとの給へる	いてくだるなり	よのつねなり	えみわらひなどする	思ひいづる事は わくい(朱)	くるまをとして	

165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152
137	137	136	134	133	132	132	131	131	131	129	129	129	128
おそろしとなん。 きにわな、くくうつぶし給め るとぞイ	ふたがりて、わな、かれ	人やみつらんと	このだい二がみえぬ	大貳かよろづに	さかりすぎ、はぎの	雁さへ雲井はるかに	夜はをのづから	なげきあかし給て	むねふたがりて	あはれとおほえつれば	おほえて、つゐに	とりかくしつる	おとしをきて
おそろしとなん るとぞイ	ふたがりてわな、かれ	人やみつらんと	このたい二かみえぬ	大貳かよろづに	さかりすぎはきの	雁さへ雲井はるかに	夜はをのづから	なげきあかし給て	むねふたがりて	あはれとおほえつれば	おほえてつゐに	とりかくしつる	おとしをきて
おそろしとなん るとぞイ	ふたがりてわな、かれ 手もイ（朱）	人やみつらんと け（朱）	このたい二かみえぬ	大貳かよろづに	さかりすぎはきの たる（朱）	雁さへ雲井はるかに かり（朱）	夜はをのづから ひる（朱）	なげきあかし給て くらしイ（朱）	むねふたがりて	あはれとおほえつれば	おほしてつゐに	とりかくしつる	おとしをきて こ（朱）
おそろしとなん るとぞイ（朱）	ふたがりて○わな、かれ 手もイ（朱）	人やみつらんと け（朱）	このたい二かみえぬ	大貳はよろづに	さかりすぎはきの たる（朱）	雁さへ雲井はるかに かり（朱）	夜はをのづから ひるイ（朱）	なげきあかし給て くらしイ（朱）	むねふさかりて	あはれとおほしつれば	おほしてつゐに	とりかくしつる	おとしをきて